

一言

投資家に向けたESG情報開示を

世界では企業側からのESG情報の開示が進んでいるが、日本企業の報告書を見ると投資家にわかるように十分説明されていない面が多い。

世界では企業側からのESG情報の開示が進んでいるが、日本企業の報告書を見ると投資家にわかるように十分説明されていない面が多い。

サステナビリティ情報（環境・社会的情報）の開示というと、これまで発行されている日本企業のサステナビリティ報告書はCSR報告が中心で、こちらはあらゆるステークホルダーを対象とした社会向けの報告書である。このアプローチでは、企業評価の源泉となる財務に影響

するサステナビリティ要素の情報開示が弱いのである。現状では多くの場合、重要であると特定されたサステナビリティ要素が戦略や事業報告の中にリンクして報告されていない。また、社内での実施主体がサステナビリティやCSR担当者だけで実施されており、事業部門や経営企画・IR部門とは別々に行われているため、両者間の認識ギャップが生まれてしまう。投資家が求める情報とは、業績に影響

するサステナビリティ要素が事業の「機会」と「リスク」の両面でのように関係しているのかにある。重要と考える課題が事業機会を生み出す要因なのか、会社として管理して徹底しておくリスク課題なのか、また、それはバリューチェーンのどこで発生するのか、といったことを基本で整理しておくことだ。

これまでのサステナビリティ報告はステークホルダーの関心に重点を置いてきたが、今後は投資家を対象とした「財務マテリアリティ（重要課題）」に重点を移し、財務面に影響するサステナビリティ課題を考えていくことが必要になる。